

■平成28年度 学校経営計画等報告会(記録)■

1 日時 平成29年2月24日(金) 10:00~11:30

2 場所 第1情報教室

3 出席者

(1) 学校評議員(敬称略)

坂越 正樹, 山本 名嘉子, 荒谷 信子, 野村 正人

(2) 学校関係者評価委員(敬称略)

井上 泰秀, 荒谷 信子(兼務), 脇坂 治海, 市場 一也, 道川 真由美

(3) 広島中学校・広島高等学校

榊原 恒雄, 中井 ひとみ, 矢原 豊祥, 前田 秀幸, 奥本 実, 三谷 弘子,
大島 美紀, 大下 伸一, 原田 二郎, 土佐 吉男, 小坂 弘尚, 石橋 克彦, 神垣 有孝,
橋本 克久, 森 嘉治, 前岡 圭子, 森棟 尚, 山田 芳宏, 日浦 泰志, 川上賢昭,
積山 昌典, 片岡 由美, 西村 洋子, 荒石 和夫, 福本 洋二, 瀬川 慎司, 物見 優
(計35名)

4 校長あいさつ

5 出席者紹介

6 報告

(1) 平成28年度学校経営計画の概要

(2) 平成28年度学校評価結果の概要

(3) 平成28年度授業満足度調査結果の概要

(4) 平成29年度学校経営計画の概要

7 質疑応答

<学校評議員と中学校主任>

○コンピテンシーの内容と授業満足度調査の教師一人一人の結果をどのようにフィードバックしているのか。

→ コンピテンシーは、批判的思考力など6つの項目を資質・能力としてあげている。授業満足度調査の結果から個別に対応したり、教員はお互いの授業を見合ったりするなど授業力の向上を図っている。

○授業満足度 90%と 88.7%の 1.3%の差はどこに問題があるのか明確にしていく必要がある。教科書だけでなく、先生方の長年の経験を生かした授業づくりと興味のあることに関連をもたせた授業の工夫をしてほしい。

→ 今年度から業績評価を行い、先生が目標を設定し業績評価書をもとに面談を行っている。今年は授業満足度アンケートにおいて気になる生徒にどう対応していくのか授業担任に投げかけている。

○実力テストの結果から上位層と下位層の二極化があるのではないかと。下位層が伸びにくい時期なのか。高校でついていけるのか。

→ 学年会、教科で分析シートを作成し取り組んでいる。下位層など気になる生徒へは、学年の教員団で今後に向けて取り組んでいる。中3の高校への取組は放課後等を活用し行っている。

<学校評議員と高等学校主任>

○授業満足度評価に関わり、多くのバックデータがあると思うが、教師一人ひとりにどのようにフィ

ードバックしているか。

- アンケートデータ以外に、直接生徒にインタビューしており、そこから見えてきた成果や課題を通じて教師に還元している。
- 教師は教えたがり屋ではないか。質問を受けたら、すぐに説明せず、生徒に考えさせることで思考力・判断力が身に付いた事例がある。教師が変わることが、普段を当たり前だと思っていることを見直してみる必要がある。
- 本校では、パフォーマンス課題の研究開発を行っている。学んだことを活用する経験や総合的な学習との関連を意識することで生徒の学びが深まっている。手法も大切であるが、教科主任会議においても、常に生徒の学びをいかに深めるかという観点で議論している。
- 学年進行とともに進路目標が定まってくる。それに伴い成績上位の生徒と下位の生徒に対して、授業進度や内容においてそれぞれどのようなケアをしているか。
- 学年、担任以外に、教科会議において生徒の状況を把握している。実態に応じて扱う内容を精選するなどして、教科でもケアを行っている。

<学校関係者評価委員と中学校主任>

- 授業満足度調査で自己評価の低い生徒の要因は何か。
- 一生懸命努力しても点数に結びつかないために自己肯定感が下がっている。やっていることは間違いがないと実感させることが必要である。自分が人前に立ってということが難しいところがあるが、集団やペアなど活躍の場の中で自己肯定感が高まっていると思われる。
- 中高一貫校のため中3はリーダーとしての成長を進める難しさはあるか。
- 中学校と高等学校で分かれて行う行事もあるので、中3がリーダーとして活躍する場はある。中3になったらリーダーとして引っ張っていくよう指導も行っている。
- 豊かな感性について、アンケートの結果であると思うがリーダーセミナーの出席者や参加したいなどの希望を指標にしてはどうか。中2が苦しんでいるようだが、これに対する取組があれば教えて頂きたい。
- ミドル層を上げることが課題である。リーダーセミナーの内容を学級における活動などで広めていきたい。
- ことば科で批判的思考力や論理的思考力は大切であるが、その中に人間形成に関わるテーマは入っているか。
- 他者を認める、双方向の意見を大切にするなど人間形成については道徳の研修の中でも取り組んでいる。

<学校関係者評価委員と高等学校主任>

- 英語検定など目標達成に向けての取り組みは。
- 英語検定を受験するよう奨励していることに加え、広島中学や広島高校での授業の取組が英語検定の結果に繋がっている。
- SGHの取組みとして、世界に目を向ける以前に日本のよさを知る取組みはしているのか。
- SGH認定以前より、音楽で和太鼓、体育で弓道、全体では能や落語の鑑賞など日本の伝統文化を重んじる活動を行っている。
- 授業満足度の7つの質問項目を分析したときに、成績層との相関など何か特徴が見えてくるのか。
- 評価の高い生徒はどの授業や授業者に対しても高く、低い生徒は、どれに対しても低く評価する特徴がある。授業でアウトプットさせる場面も増えており、自己評価の各項目の向上に繋がっている。

8 諸連絡

学校関係者評価委員会の方に評価表の記入について

9 教頭あいさつ